

生成 AI 時代の「肖像・音声」利用と保護の法務詳説

～著作権・パブリシティ権・不競法の観点から～

— 講師 —

西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 パートナー弁護士・ニューヨーク州弁護士

経済産業省 AI 事業者ガイドライン検討会 委員 福岡 真之介 氏

日 時 2026 年 3 月 27 日 (金) 午後 1 時～3 時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2 週間、何度でもご視聴可)
会 場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

〔重点講義内容〕

生成 AI により個人の肖像や声を精緻に模倣できる現在、模倣された人にとってはこれらを保護することは喫緊の課題です。他方で、企業が画像や音声利用において生成 AI を利用する場合に他人の肖像権や音声に関する権利を侵害しないかが問題となります。

本講演では肖像と声の無許諾利用をめぐる法的論点を整理します。著作権法、肖像権、パブリシティ権、不正競争防止法などについて解説することに加え、倫理的観点も含め、肖像と声の保護と企業が取るべきリスク管理の指針を提示します。

1. 導入：生成 AI による肖像・音声利用の現状と法的課題

- (1) ディープフェイク、AI カバーソング、音声合成商品の普及とリスク
- (2) 検討すべき法的フレームワーク(著作権、商標、不法行為、不競法)

2. 著作権法・商標法による保護の限界と可能性

- (1) 声そのものの「著作物性」と実演家の権利(著作隣接権)
- (2) 学習段階(30 条の 4)と生成・利用段階における侵害判断の乖離
- (3) 商標法における「声」の登録と「商標的使用」

3. 不法行為法上の保護：肖像権・パブリシティ権の深掘り

- (1) 肖像権の判断枠組み：受忍限度論と AI 生成画像への適用
- (2) パブリシティ権：ピンク・レディー事件判決に基づく 3 類型と「声」への拡張
- (3) 「人声権」に関する議論

4. 不正競争防止法

- (1) 周知表示混同惹起(1 号)と著名表示冒用(2 号)
- (2) 具体的ケーススタディ：
 - [1] AI 生成肖像の販売・広告利用 [2] 有名人風 AI カバーソングと「打ち消し表示」の有効性
 - [3] 音声を使用した商品
- (3) 誤認惹起行為(20 号)：特定の声優を騙る合成音声の法的リスク
- (4) 信用毀損行為(21 号)：非競争者間における誹謗中傷への対応

5. 実務におけるコンプライアンスと倫理的判断

- (1) 適法性の判断を超えた「炎上」対策と倫理的観点
- (2) 企業に求められるガバナンス

6. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 福岡 真之介(ふくおか しんのすけ)氏

1996 年 東京大学法学部卒業。1998 年 司法修習修了(50 期)。2001 年～現在 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業勤務。2006 年 デューク大学ロースクール卒業(LL.M.)。2006 年～2007 年 シュルティ・ロス・アンド・ゼイベル法律事務所勤務(出向)。2007 年～2008 年 ブレーク・ドーンソン法律事務所勤務(出向)。2014 年～2015 年 大阪大学大学院高等司法研究科招へい教授。著書は、『生成 AI の法的リスクと対策 増補改訂版』(2025 年)、『生成 AI と著作権の論点』(2025 年)、『知財法務を知る』(2024 年)、『DAO の仕組みと法律』(2023 年)、AI プロファイリングの法律問題 - AI 時代の個人情報・プライバシー -』(2013 年)、『生成 AI の法的リスクと対策』(2023 年)。主な論文は、「リスクテイキング・マネジメントへの転換と法務部門の未来(連載)」NBL1 月号(2025 年)、「AI 活用における法的リスク管理」銀行実務(6 月号)(2025 年)、「生成 AI を活用するための法律知識ディスクローチャー」&IR8 月号(2024 年)、「金融機関によるメタバースの活用および DAO の支援・取引可能性」金融法務事情 1 月号(2024 年)、「ユースケースにみる AI コンテンツ生成に対する内部規約の要点」ビジネス法務 11 月号(2023 年)、企業における ChatGPT などの生成 AI の利活用の法的リスクと対策」金融・商事判例 7 月号(2023 年)など多数。

